

異世代交流でまちを元気に 黒潮元気de歌謡ショー開催

NPO法人しいのみ主催「黒潮元気de歌謡ショー」が6月25日(日)、ふるさと総合センターで開催され、全30組の出場者が歌や踊りを披露しました。

同歌謡ショーは、株式会社よどやが事務局となり地域で活動している団体を応援する「きよしサンタ基金」を受け、「黒潮町を活気づける事業に活用したい」という主催者の思いから企画されたもの。そのほか商店や事業所などからも寄付を募り、今回の開催に至りました。

出場者は小学生から80歳以上まで幅広い世代に渡り、歌や踊り、楽器などそれぞれが得意とする分野でステージに立ちました。

姉妹で出場した小学6年生の姉・森麗花さんは、自ら選曲した曲を透き通った声で力強く歌い上げ、「少し緊張し

たけれど、上手だったと言われるのが嬉しい」と舞台に立つ楽しさを話しました。



麗花さん(左)と稟花さん(右)

また、小学2年生の妹・稟花さんは、初めての舞台ながらも「緊張しなかった」と笑顔でステージを振り返りました。

多世代が交流できる場として「来年も開催してほしい」という声が多く聞かれ、主催者は今後の実施についても検討していくと話しました。



華やかな衣装で出場

第44回「部落差別をなくす運動」強調句間 in 黒潮町



同和問題に對する正しい知識や理解を深めるために啓発事業の一環として7月11日(火)、大方あかつき館でフリーライターの角岡信彦さんによる記念講演「ふしぎな部落問題」が行われました。

角岡さんは「部落差別は自然には無くならない。関係者意識を持ち、正しく知り広めていくことが大事」と話していました。

願いで駅を華やかに 第4回七夕飾りでおもてなし

大方ライオンズクラブ主催「第4回七夕飾りでおもてなし」が7月1日(土)、土佐佐賀駅と土佐入野駅で開催され、町内の小学校に通う児童101人と保護者らが短冊の飾りつけを行いました。

この取組は、日本の伝統行事によって土佐くろしお鉄道の利用促進を狙う目的で、大方ライオンズクラブが土佐くろしお鉄道株式会社との協力のもと始めたものです。

当日は、事前に募っていた短冊を児童らが紙飾りとともに竹にくくっていききました。30度を超える暑さと高い湿度の中、合計881枚の短冊の中から、自分の書いたものを探しながら作業をする児童もいました。

願いごとには、「有名人になれますように」「もつと早く走れるように」など、思いおもいの気持が込められました。



飾りつけをする児童ら

第67回社会を明るくする運動

7月は、社会を明るくする運動の強調月間です。犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域の力を推進させる取組を進めることを目的に町内保護司のみなさんから大西町長に内閣総理大臣メッセーが伝達されました。



民生委員・児童委員に対する 厚生労働大臣特別表彰受賞

長年にわたり民生委員・児童委員として地域福祉の推進にご尽力いただきました酒井隆昌さんが民生委員・児童委員に對する厚生労働大臣特別表彰を受賞し、大西町長より表彰が伝達されました。

